五戸町

伝統も文化も、人とのつながりも。今あるものを守って次世代へ

ふるさとの家保存会／佐藤 美穂子さん

ふるさとの家の魅力を知ってもらおうと、五戸町が所有する古民家を利活用した多様なイベントの主催や、古民家の保存維持活動を行う。週に一度古民家を開放し、多世代の交流の場や、地域活動の活動拠点となっている。

子どもからお年寄りまで、誰でも集える居場所にしたい！

古民家の維持管理をしながら、人が集う場をめざす

江戸時代後期、五戸町倉石地区に建てられた旧大久保家住宅「ふるさとの家」は、築200年の茅葺き屋根の古民家で、昔の暮らしを知ることができる展示施設です。「長年使われていない状態のふるさとの家を、もったいないな、何かできないかなって考えていました」と佐藤さん。地元で野菜を栽培しながらカフェ「音水小屋」を営む佐藤さんは、2019年に五戸町で移住促進の仕事をする仲間とともに、町の交流事業の一環としてふるさとの家を大掃除するイベントに参加。これをきっかけにその後もふるさとの家の魅力を知ってもらおうと、有志でふるさとの家のお掃除イベントや見学会を実施していましたが、ふるさとの家を管理していた指定管理者がなくなることに。それならば自分たちでこの場所を管理し、活用してイベントをしたら楽しくなるよね、ということで2020年1月、地域おこし協力隊や町役場の職員など若手の有志7名で任意団体「ふるさとの家保存会」が結成されました。

「一番の目的はふるさとの家の維持、保存です。この建物を残すことで、昔の暮らしや火のある暮らしを伝えていけたらと思っています。誰でもぶらっと立ち寄れる場所を、維持管理しながら作っていきたいんです」。

ふるさとの暮らしを伝える見学会やイベントを開催

現在は週1回、毎週土曜日を開放日としてふるさとの家を無料開放しています。茅葺き屋根の保存のためにも、開放日には囲炉裏に火を入れて燻しています。また、月に一度の親子向けイベントでは、たとえば庭で虫獲り大会、手づくりおもちゃの制作、れんがを組んでピザ窯作りなど、ふるさとの家でできるさまざまなイベントを開催しています。「おさがり交換会」では、使わなくなった子ども服や絵本、雑貨などを持ち寄り、ほしい方、必要な方は持ち帰ることができます。

「子どもたちは囲炉裏に火を入れると喜ぶんですよ」と佐藤さん。「囲炉裏の火でマシュマロを焼いたり、鍋を作ったり。現代の生活では身近に火がないからか、子どもたちも興味津々です」。近所の小学校の子どもはもちろん、八戸市など町外からも親子連れで訪れます。イベントの周知にはSNSを活用し、近隣の保育所や小学校にはチラシも配布しています。

建物内に必要なものや保険料は、県の補助金や五戸町のまちづくり補助金を活用。本棚や靴箱などは県産材を利用して地域の業者さんに作ってもらったり、材料を準備して自分たちで組み立てたそう。また、イベントでカンパを募り、薪代、電気代、水道代などの維持費を賄っています。

年末には煤払いをしてふるさとの家をきれいに。

ふるさとの家が地域の人の日常に

これまで活動を続けてきたことで、地元の人が気軽に立ち寄ってくれるようになったと話す佐藤さん。「近所の人が火にあたりにふらっと来て、おしゃべりして帰るとか。一度来て、居心地が気に入って通ってくれる人もいるし、ときどきりんごジュースや野菜を持ってきてくれたりする人もいます。ふるさとの家にある裂き織機はそれまで誰も扱えなかったのですが、最近では町内在住で南部裂織の先生をされている80代の方がバスでここまで通って、その場にいる子どもたちに使い方を教えてくれたりするんですよ」。

おさがり交換会では子ども服も無償提供。

囲炉裏を囲み、集まった子どもたちへ読み聞かせ。

縁側で食べるご飯は格別の美味しさ。

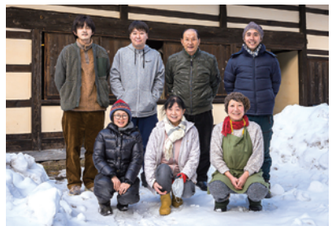
世代を超えたつながりが生まれる場所。

ふるさとの家にさまざまな人が立ち寄り、地域の人の日常としてこの場所が存在することで輪が広がり、やりたいことが生まれる場所となっています。

居場所が増えると、出会いも増える。ふるさとの家を守り、次につなげたい

ゆくゆくは外国人が立ち寄れる場所、移住相談できる場所、シェアオフィスとしての機能を備え、平日も開放して五戸町の案内所のような場所になればと語る佐藤さん。メンバーに農家が所属していることもあり、農家を巻き込んでふるさとの家に人を集める収穫感謝祭の開催もめざしています。

「80代の方から子どもたちが学ぶ姿をみて、この場所をずっと続けたいよね、この場所を守りたい、やりたいと思ってくれる次の世代があらわれてほしいね、って思っています。学校、家、職場だけではないつながりがある場所、ぷらっと立ち寄れる場所が五戸町にもっと増えて、普段出会わない人たちと出会えたら。今あるものを守って次に繋げられるようにしていきたいですね」。



若手スタッフが個性を伸ばして活躍している。

囲炉裏をフル活用して焼きおにぎり作り。

団体データ

ふるさとの家保存会

- 設立　2020年1月
- メンバー　8名
- 拠点　五戸町
- 活動エリア　五戸町
- 住所　〒039-1703
  青森県三戸郡五戸町
  倉石又重上川原110-2
- TEL　090-2796-9974（代表 佐藤）
- MAIL　gonohe-furusato@gmail.com
- HP　https://furusato-no-ie.com/
- Instagram　gonohe_furusato

HP　facebook

連携先機関

- 五戸町役場
- 五戸町家庭教育応援隊

団体のあゆみ

2019
- ふるさとの家で大掃除イベントを開始

2020
- 「ふるさとの家保存会」を設立
- 「親子向けイベント」開催

ここがPOINT!

無理をしない!メンバーそれぞれの得意分野を活かす

ボランティア活動なので、メンバーに負担が偏ったり無理することがあると活動を維持できなくなってしまいます。参加メンバーが無理をしないよう、それぞれの得意な分野を活かせるように仕事を割り振るなど工夫をしています。
メンバーに農家やフリーランスなど時間的に自由が利く人が多く所属しているのも、活動を上手に続けられてきたポイントです。お互いがカバーし合いながら楽しく活動を続けています。